

2022年2月13日（日）主日朝礼拝説教

『夢を見るもの』井上隆晶牧師
創世記 40 章 23 節～41 章 9 節、使徒言行録 2 章 16～21 節

新型コロナ・オミクロン株の感染者が全国で毎日 9 万人を超えるようになりました。身近な人にも感染者が出始めていますし、保育園や学校でも多くの子供たちが感染し、園を閉めたり、開けたりの繰り返しのようです。私たちはいつまでこの感染症と戦わなければならないのでしょうか。そこで今日は忍耐することの意味についてお話をしましょう。

①【神が共にいるならどこにいても】

旧約聖書の中にヤコブという族長が出てきます。このヤコブには 12 人の子供がいたのですが、その末から二番目のヨセフという子を彼はどの息子よりかわいがり、良い服を着せて特別に扱いました。「兄たちは、父がどの兄弟よりもヨセフをかわいがるのを見て、ヨセフを憎み、穏やかに話すこともできなかった。」（創世記 37：4）と伝えています。さらにヨセフは、幼い時から夢を見る子でした。ある時、自分の束が畑の真ん中に立ち、それを 11 の束が拝む夢を見ました。兄さんたちが自分を拝むという意味です。同じような夢を他にも見るのですが、それを兄さんたちの前で言うものですから、兄さんたちはますますヨセフを憎むようになります。ついに兄たちはヨセフを殺そうとはかり、穴に投げ込んでしまいます。結局彼は殺されずに、通りかかった旅の商人が穴から引き上げ、銀貨 20 枚で外国人に売られてエジプトに連れていかれました。ヨセフはエジプトで宮廷の役人に買い取られ奴隷となりました。彼は主人に目をかけられ、家の管理をすべて任されていたが、ある時、無実の罪を着せられ牢屋に入れられてしまいます。兄たちに憎まれ、売り飛ばされ、見知らぬ国に連れて行かれ、やっと穏やかに暮らせると思ったら無実の罪で牢屋に入れられるとは、まったく気の毒な人です。しかし聖書を見ると「主が共におられたので」という言葉が繰り返されているのが分かります。「主がヨセフと共におられたので、彼はうまく事を運んだ。」（39：2）「主が共におられ、主が彼のすることをすべてうまく計らわれ」（39：3）それは牢獄に入れられた後でも同じでした。「しかし、主がヨセフと共におられ、恵みを施し、監守長の目にかなうように導かれたので、監守長は監獄にいる囚人を皆、ヨセフの手にゆだね、獄中の人のはすべてヨセフが取り仕切るようになった。」（39：21～22）「主がヨセフと共におられ、ヨセフがすることを主がうまく計らわれたからである。」（39：23）

「主が共にいてくださる」これが幸いの秘訣なのです。彼が自分で計画し、物事をうまく運んだのではありません。香川豊彦は「愛とは尻拭いをすることである」と言いましたが、神様がヨセフと共におられ、彼の失敗を尻拭いしてくださり、ちゃんとすべてが上手く行くように取り計らい、導き、働いてくださったのです。

だから、主が共にいなければ大変なことになります。私は「神が共にいてくださる」ということが最も人生で重要なことだと思います。私たちは美しい所に住めたら天国、健康だったら天国、問題がなかったら天国だと思いますがそうではないのです。榎本保郎牧師は肝硬変になりましたが「肝臓が悪くないからといって喜んで人を見たことがない」と書いています。天国とは神がおられる所です。周りがどんなに悪い状況でも、神があなたと共にいるなら天国なのです。神がヨセフと共におられるなら、たとえ牢獄の中でも天国なのです。反対に神が共にいなければ、牢獄の外で自由を満喫しようが、大金持ちになろうが、仕事が成功しようが、長生きをしようがそれは天国ではないのです。神はあなたと共にいたいと思っておられますが、あなたが神と共にいるかどうかが問題なのです。神と共にいるとは教会を離れず礼拝を守ることであり、神の言葉を聞いて従うという事です。二人三脚のようにキリストと一体になり、キリストと共に生き、共に歩むことが、神と共にいる生活です。

②【人間に頼らず、神に頼ることを学ばせるため】

その後、彼の牢屋の中に給仕役の長と料理役の長の二人の男が投獄されます。この二人がある夜、夢を見、その意味が分からないでふさぎ込んでいたので、ヨセフが「解き明かしは神がなさることではありませんか」(40:8) といって夢の解釈をしてあげます。ヨセフの解釈通り、給仕長は赦され、料理長は処刑されました。ヨセフは給仕長に「あなたが釈放されたら、自分が無罪である事を王に話してほしい」と頼みます。外国で知り合いがいない彼にとって、この人こそ唯一の頼みであり、チャンスでした。「ところが、給仕役の長はヨセフの事を思い出さず、忘れてしまった。」(創世記 40:23)と聖書は記しています。あれほど「神が共にいたのですべての事がうまく運んだ」と書かれていたのに、ここにきて物事がうまく運ばなくなりました。それは、神がヨセフが釈放されることを阻止したということなのです。神はどんな物忘れの激しい人も自分の計画の為にお使いになります。神の計画を人間は止めることは出来ません。すぐに釈放しようと思えば、すぐにでも出来るのです。だから給仕長のせいではありません。ヨセフはこれから二年の間、牢獄の中に閉じ込められ、その後エジプト王の夢を解釈し、エジプトを飢饉から救いますが、それが神様の計画だったのです。牢屋に二年閉じ込められた意味について書かれている聖書の言葉があります。

・「あらかじめひとりの人を遣わしておかれた。奴隷として売られたヨセフ。主は、人々が彼を卑しめて足枷をはめ、首に鉄の枷をはめることを許された。主の仰せが彼を火で練り清め、み言葉が実現する時まで。」(詩編 105:17~19)

・「霊の父は、わたしたちの益となるように、御自分の神聖にあずからせる目的でわたしたちを鍛えられるのです。おそよ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。」(ヘブライ 12:10~11)

牢獄という火でヨセフは練られ、清められ、信仰が鍛えられたという事です。パウロも試練の中で、自分を頼らず、神を頼るようになったと書いています。「私たちは耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。私たちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。」(Ⅱコリント 1:8~9)

試練は試練自体にそんなに意味があるわけではありません。試練を通して人を神に向かせることに意味があります。人は試練の中で、最初は理不尽さに怒り、人に頼り、人のせいにし、何かでごまかそうとします。しかしやがてすべての可能性が断たれると、自分の心を見つめるようになり、最後は神だけを頼りとするようになります。ヨセフは人間に頼りました。そうではなく神を頼る者にするために神は訓練されたのです。つまりヨセフが変わるまで二年が必要だったという事なのです。それが試練が与えられる意味なのです。

③【試練の中で信仰は育ち、新しい力が与えられる】

苦しみというのは人生の中で無いに越したことはありませんが、実は苦しみがなければ、人間は信仰が成長しません。また、試練は私たちの歩みを止め、何の実りも与えないかのように見えますが、実はその中でこそ別の能力が与えられるのです。

●保育園の園長先生と話したのですが、コロナで園を開けたり閉めたりの際の緊張の連続の中で、保育士さんたちに変化が出てきたというのです。それは皆がそれに取り組むことで団結し一つになったというのです。更に厨房のスタッフはそのスキルがアップしたというのです。試練によって新しい力が生まれたという事です。私が都島教会に赴任した時も、信徒が2人しかいませんでしたから人に頼れず、神にしか頼れませんでした。伝道の仕方も分からず、朝も晩も祈り続けていました。こうして神に頼る訓練をされたのだと思います。またカルトの説得の時も、最初は自分の知識やスキルで何とか説得しようとしてしまいましたが、なかなかやめないで親のせいにし、説得に行くのが嫌で、道々うめきながら「神様、助けて下さい」と祈りました。自分の無力さを教えられ、勉強を辞めて雑談をしたその夜、突然、その人は脱会されました。後で、「どの教えが入ったの？」と聞くと、「カルト宗教では自分たちの神が本物だと教えられていたが、この人のように人と関わることは出来なかった。この人を動かしている神様を知りたくなった」と言われ、あつけにとられました。自分は限界に来ていたからです。神の力でその人は辞めたのです。自分の無力を知るために二か月が必要だったことを知りました。その他の試練の時も、神を頼る訓練をされたのだと思います。

これからも神に頼る訓練は続くことでしょう。そして試練を超えるたびに、信仰がますます確かになることでしょう。こんな私と神は共にいて下さり、見捨てないで信仰を育てて下さいました事を感謝します。